

「近年の地震によるコンクリート構造物の被害と東日本大震災における津波被害に関するセミナー」がバンコクで開催される



2011年8月17日にタイのバンコクにおいて、土木学会タイ分会とコンクリート委員会とのジョイントセミナーが開催された。土木学会コンクリート委員会では、過去に台湾、モンゴル、韓国、ベトナム、スウェーデン、ギリシャ、トルコでジョイントセミナーを行い、アジアやヨーロッパのさまざまな国と協力関係を築いてきている。過去のジョイントセミナーでは、両者からの発表により、最新の研究成果や設計コードに関する情報交換を行ってきたが、今回は、東日本大震災をはじめとする地震被害に関する最新の情報をタイの技術者に伝えることを目的として行った。

セミナーは、タイ国コンクリート学会長である Thammasat 大学 Somnuk Tangemsirikul 教授(写真1)の挨拶で始まった。



写真1 Somnuk教授からの挨拶



写真2 タイの関係者および日本からの講演者

セミナーでは約70人のタイの研究者や技術者の方たちに対し、日本側から5件の講演が行われた。講演は、水谷法美氏(名古屋大学教授)が津波の特徴と東日本大震災での津波被害や今後の対策について、幸左賢二氏(九州工業大学教授)が津波による橋梁の被害と津波力の算定方法に関する研究成果について、睦好宏史氏(埼玉大学教授)が阪神・淡路大震災から東日本大震災までのコンクリート構造物の被害とそのメカニズムについて、中村光氏(名古屋大学教授)が耐震補強方法や被災構造物の復旧方法について、丸山久一氏(長岡技術科学大学教授)がコンクリート標準示方書の耐震設計の歴史や考え方と東日本大震災を受けたコンクリート委員会の取組みについて、話された。

出席者からは津波のメカニズム、周期特性と被害との関係、非線形解析による耐震性能照査法、補強方法に関することなど多数の質問が出され、東日本大震災の被害や日本の耐震設計技術に対して非常に注目していることを感じる事ができた。また、このような情報を海外に積極的に発信していくことが今後必要であることが認識された。

なお、本ジョイントセミナーは、土木学会海岸工学委員会に協力してもらったとともに、公益信託土木学会学術交流基金による助成を受け、実施されたものである。ここに記して謝意を表す。
(中村光(コンクリート委員会常任委員、名古屋大学))

土木学会誌についてのご意見、ご感想、お問合せや各コーナーへの投稿、掲載記事などの詳細情報は土木学会誌ホームページをご覧ください

<http://www.jsce.or.jp/journal/>

土木学会誌 検索